

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム かすたねっと 2階 コスモス		
所在地	〒606-0024 京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成28年10月10日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2670600424-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは、利用者様主体の生活に基づいた支援に努め、利用者様を尊敬し、これまでの生活歴を大切に、その人らしい生活を送っていただけるように職員一同努めています。日常生活には、様々なレクリエーションや筋力体操を取り入れたり、利用者様に盛り付けや食器拭き等のお手伝いをさせていただいたり、利用者様のペースに合わせて、楽しみややりがいをもって生活していただけるように温かく支援しています。また、地域のボランティアの方に人形劇や紙芝居、生け花等を行っていただき、利用者様と地域の方との交流を大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にし、利用者様がその人らしい生活を送れるように、理念に基づいたケアを職員全員で実践している。また、職務での気付き等は管理者に相談の上、カンファレンスにて全員が共有し、実践する様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催のお祭りや行事等への参加や、日常的な地域への散歩にて、地域の人との交流を大切にしている。また、地域の先生を招いて生け花教室や音楽療法も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターが主催する認知症支援の活動に積極的に参加し、地域の小学校の校外学習を受け入れ、子供たちに認知症の人の理解を深めてもらう場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を開催し、利用者様の日々の生活や行事、運営内容を報告しており、また、今後の運営内容や行事については意見交換を行い、サービス向上に活かす様に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの職員の方にも参加していただき、様々な情報提供をいただいている。また、毎月の地域包括会議の参加し、協力関係を築く様に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中は玄関・エレベーターは施錠せず、利用者様の意思を尊重し自由に行動していただいております。職員は利用者様が安心・安全に生活できる様に、いつも一人ひとりを見守っている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・社外研修やカンファレンスにて虐待について学ぶ機会を持ち、普段の業務において、職員全員が利用者様の虐待が見過ごされることのない様に努め、虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や、専門家を招いての社内研修にて、権利擁護について学ぶ機会を持ち、必要に応じて利用者様がそれらを活用できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約や制度改定の際は、丁寧な説明と十分な質疑応答の場を設け、ご家族様、利用者様にご理解ご納得いただける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際は、ご意見やご要望をお聞きし、連絡ノートやカンファレンスにて職員全員が共有し実践している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにて意見や提案をする機会を設けている。また、定期的に代表者が職員全員にヒヤリングを行い、個別に意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりを尊重し、やりがいを持って働ける職場環境の整備に努めている。また、有給や希望休がとれる体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、社内・社外の研修に参加できる機会を設けている。研修後にはレポート提出とカンファレンスにて発表を行い、研修内容を共有している。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会、他施設への交流・研修等に参加している。また、グループホーム連絡会にも加入している為、連絡会主催の運動会等、他施設との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴等を知りお話を傾聴しながら、少しずつ不安を取り除いていく様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の日頃の様子を見ていただき、ご家族様の要望等をお聞きしながら話し合い、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様と話し合い、サービス計画書を作成し、利用者様が生活しやすい様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を尊敬しつつ、寄り添い、語り合いながら日々を大切に生活する事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際には、利用者様の日々の様子をお伝えし、3か月に1度広報誌を作成しお渡ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に写真を飾ったり環境を整え、ご家族様や知人等が来所された際にはゆったりと過ごせる様に努めている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事など、お互いが協力し合える様に支援し、穏やかで笑いの有る暮らしが出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築き上げた関係を大切にしつつ、利用者様がお亡くなりになった後でもやり取りが出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様との会話の中で、趣味・趣向やこれまでの生活を把握しながら、ご本人様の希望を取り入れ支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様とご本人様からの日々の会話の中で、生活歴や過去の出来事をお聞きしている。また、センター方式等も利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態をチェックし、少しの変化や食欲の有無等を把握し、日々穏やかに過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族様のご希望に沿って生活や健康状態を考え、月1回のカンファレンスで検討し、ご家族の意見をいただき作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子はケース記録や健康管理表、連絡ノートで全職員が把握している。ケアの実践での気づき等は、カンファレンスで話し合い、サービス内容の見直しを行っている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季折々のイベントやドライブを楽しんでいただき、また、個人のお誕生日にはケーキやお祝いの色紙を用意しお誕生日会を開催したり、個人を大切にしたい支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、地域の方、ボランティアの方の協力など、個々の安全で豊かな暮らしを楽しめる工夫をしている。また、馴染みのスーパーに買い物に行ったりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、臨時往診、健康診断など、24時間体制で対応していただき、歯科往診も定期的に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に往診、訪問看護など受診し、細部までチェックしていただき、緊急時は素早く対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師の判断で入院した際に、安心して治療が出来る様に、医療関係者との話し合いや情報交換を行い、退院後のケアに対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期などの対応は、主治医より説明を受けた上で家族の希望を聞き、職員も含めて今後の方針を決め、変化に合わせて主治医、家族と相談しながら対応する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応を職員間で確認しながら、その都度、発生の予防や発生後の対応について取り決めを行っている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。訓練時は地域の方の協力を得ている。また、連絡網設置など、緊急時にすぐに駆け付けられるように万全の体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と接する際は、言葉遣いに気を配り、尊厳を守るように職員全員が努めている。また、業務中、利用者様の名前はプライバシーを考慮しイニシャルを用いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様の意向をまず第一に考え、支援するように心がけている。例えば、レクリエーション、入浴等も、参加されない場合は意向を尊重し、見守る対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事等、利用者様の意思を尊重し、拒否があっても気持ちを受け止め、寄り添う支援をする様、職員全員が心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服のコーディネートは利用者様の意向を伺い、整髪や衣服の乱れがないか気を配っている。また、出張理美容を利用し、ヘアカット、カラーを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けを手伝って頂くなど、利用者様の協力を得て食事の用意と一緒にやっている。食事中に音楽をかけ雰囲気作りにも気を配っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々にあった食事形態をとっている。食事量、水分量を食事毎に記録して過不足を把握し、利用者様の様子をよく観察し、体調管理に努めている。		

グループホームかすたねっと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所で利用者それぞれに応じた口腔ケア、口腔内の状況のチェックを実践している。また、訪問歯科の往診にて口腔内の健康状態を管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が保持できる利用者には出来るだけトイレでの排泄介助を支援している。また排泄管理表を作成し介助が必要な利用者一人一人のパターンやADLに応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を積極的にメニューに取り入れ、水分補給をしっかり促し、毎日の体操や散歩の実施により便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に応じた声掛けや入浴のタイミングにきを配っている。また、個人のタオルを使っていたり、入浴後の服を選んでもらうなど個別性に配慮しながら入浴中は楽しい会話を伴う介助を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に寝具を洗濯し布団を干し気持ちよく清潔に眠れる環境を整えている。就寝時には利用者個々に応じた照明や室温に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の医師の説明と薬剤師からの指導に従い、お薬リストを全職員が目を通し利用者の服薬内容を把握している。また、誤薬を防ぐために服薬介助時は、声を出し利用者の名前と薬に記載された名前の照合を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を尊重し利用者一人一人の得意分野や家事を役割分担することで所持能力の維持や生きる喜びや充実感を感じて過ごしていただけるよう支援している。		

グループホームかすたねつと(コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブやお散歩、地元のイベントやお祭り等、様々な外出を企画し、利用者様が四季の移ろいを感じて楽しんで頂ける様努めている。また利用者様それぞれの家族行事にも安心して出掛けられる様、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が同行し、見守り、利用者様が楽しんで買い物できる様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人様のご要望に合わせて、電話での会話も楽しんでもらえる様にしている。手紙等も住所の記入をお願いして、交流の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った服装をしてもらうだけでなく、気候に合わせてエアコン等で各居室、共用空間の空調管理を行っている。夜間は常夜灯のみにし、静かな環境になる様に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下等にソファを設置し、寛がれたり、利用者様同士で談笑されたりしている。日向ぼっこをしたり、夕焼けを見たりと充実した空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者様にとって一番落ち着ける雰囲気になる様に心掛けている。馴染みの家具や仏壇等を配置したり、思い出のある写真や絵等を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が認識出来る様、各居室前に表札をつけている。トイレや洗面所も同様に表示をつけ、一目で分かる様に配慮している。安全面に配慮し、必要な箇所には手すりを設けている。		